

泉州地域から発信、地元ゆかりの伝承から創る新作能

ありとほし薪能実行委員会

■活動内容

ありとほし薪能は、平成 26 年（2014）戦争のため現在の地に遷座して 70 年を期に世界平和をも祈念しつつ実施している。蟻通神社は平安期の熊野詣の中継地として、中世、日根荘絵図には「穴通」と記された由緒ある神社であり、当地縁の能「蟻通」がある。戦国初期、泉佐野市大木に京の公家、九条政基が下向した際、記した「政基公旅引付」には地元民による能の様子が記されており、当時この地域では能はごく一般の村々で広く行われてきた。

前回は蟻通神社遷座 80 年の記念行事として実施して盛況を呈し、今回、第 10 回の記念公演には、昨年に引き続き、狂言師 野村萬斎師を迎えて実施をした。当日は雨予報で、神社舞殿からエブノ泉の森大ホールに場所を移し開催した。活動 12 年目を迎え、会員の中には、現状からの新たな展開を求める動きがあり、新作能の制作を決定し、今年は仕舞を披露することができた。

■コンセプト・ねらい

泉南地域は、大阪市内・北摂地域より文化的コンテンツが少ない地であり、府下でも目立たない場所である。その場所にコンテンツ作りの一つとして、ありとほし薪能実行委員会が結成されたが、民間の有志のみでの活動のため、すべてが順調には進んでいなかった。それに加えコロナ禍もあり、今後も継続的に能文化を発信する為に記念事業として実施し、今後の活動の継続と更なる飛躍につなげることを目的としている

■活動実績

平成 26 年（2014）現在の地に遷座して 70 年を期に、古代から由緒のある蟻通神社が主題の能「蟻通」のほか能文化発展のために結成した。かつては村々で一般的に行われてきた能文化の復活を推進しつつ、戦時中の強制移転という悲劇から戦争のない平和を祈ることを目的として実施しており、前回は「ありとほし薪能」活動 10 周年の記念行事として実施し、盛況を呈した。活動 11 年目を終え、会員の中には、新たな展開を求める動きがあり、活動 12 年目にあたる今回、新作能の制作を決定し、仕舞「七曲蟻通」（ななわだ ありとおし）を披露した。

平成 26 年（2014）第 1 回演目「蟻通」蟻通神社 舞殿	観覧者	429 人
平成 27 年（2015）第 2 回演目「鞍馬天狗」蟻通神社 舞殿	観覧者	336 人
平成 28 年（2016）第 3 回演目「融」蟻通神社 舞殿	観覧者	384 人
平成 29 年（2017）第 4 回演目「紅葉狩」蟻通神社 舞殿	観覧者	367 人
平成 30 年（2018）台風のため中止		
令和元年（2019）第 5 回演目「蟻通／乱」蟻通神社 舞殿	観覧者	327 人
令和 2 年（2020）コロナのため中止		
令和 3 年（2021）第 6 回演目「安達原」泉の森小ホール	観覧者	90 人
令和 4 年（2022）第 7 回演目「船弁慶」泉の森大ホール	観覧者	70 人
令和 5 年（2023）第 8 回演目「葵上」蟻通神社 舞殿	観覧者	173 人
令和 6 年（2024）第 9 回演目「翁」「蟻通」蟻通神社 舞殿	観覧者	470 人※
令和 7 年（2025）第 10 回演目「蟻通」「末廣かり」「殺生石」 泉の森大ホール	観覧者	514 人※

※芳泉文化財団 地域活性化助成 採択事業



■成果・効果

大阪府下の事業として芳泉文化財団より助成金を頂いているが、近年、本委員会の活動として、蟻通神社以外の新たな別の場所での能の発信を、考えるようになった。その活動を求めるに際し、「蟻通」というキーワードを元に考えた。

そして「蟻通神社」の名を持つ3つの神社の存在を確認し、それら神社との交流も現在進めている。新作能もそれらの神社で披露できるものがよいと考え、蟻通伝説（姥捨て山伝説）を元にした「七曲蟻通」を新作能にすることを決定した。

今年は、制作時間の関係から謡の部分のみを制作し「第10回記念ありとほし薪能」公演で披露した。物語のテーマは、清少納言の枕草子「社は」の段に出てくる蟻通伝説を元に制作している。次回の「第11回ありとほし薪能」では、仕舞を完成させ、完全な形の新作能「七曲蟻通」の初披露を行いたいと考えている。

■今後の展開

天候不順の為、国登録有形文化財である蟻通神社舞殿での開催ではなく、エブノ泉の森大ホールにおいて「第10回記念ありとほし薪能」を実施した。

記念事業として、再び狂言師 野村萬斎師を招聘し実施することにより、初めてありとほし薪能に訪れた方も増加し、薪能の周知、観覧者の増加、そして伝統文化の継承を広める効果となった。

さらに、新作能を制作することによって、周辺地域の歴史・文化・伝承に基づく諸活動と連携することにより、活動の舞台を広げ、相互に高め合い、地域文化の向上に寄与することができた。

今後の展開としては、新作能を上演する施設について考えている。その候補として、「蟻通神社」の名を持つ3カ所の神社（和歌山県に2カ所、奈良県に1カ所）での開催がよいとの委員の意見があり、その実施に向けて、三神社への訪問等、交流を活発化させている。

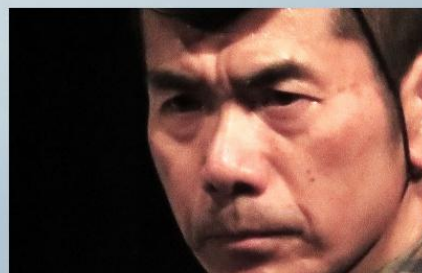
また、能文化を未来にとの考えから、薪能以外では、子供向け能楽教室を本委員会ができたと同時に実施しているが、子供自身が主役となって演じる「こどもありとほし薪能」の実施も今後の展開として考えている。



第10「ありとほし薪能」会場風景



2025年5月30日 第10回記念
ありとほし薪能
狂言「末廣がり」



2025年5月30日 第10回記念
ありとほし薪能
能「蟻通 ありどおし」



2025年5月30日 第10回記念
ありとほし薪能 能「殺生石」



2025年5月30日 第10回記念
ありとほし薪能
仕舞「七曲 蟻通」

